

表紙の作品について

HOKKAIDO GARDEN SHOW 2015 DAISETSU入賞作品
森には中心がない。森は方向性を持たず、人間の認識を遥かに超えた
大きさでその手を広げていく。あるときは凶暴に人間に襲いかかり、
あるときは優しく包み込む。まるで、全体像を把握できない生き物の
ようだ。本作品はそんな森に骨格を与えて一体の生き物として表現
し、人間と対峙させるインスタレーションである。地面から隆起した
ような森の骨格の内部に人間が入った瞬間、その人は「森の心臓」、つ
まり「中心」となる。

作者紹介

島山 慎吾 (はたけやま しんご)

札幌市立大学デザイン学部デザイン学科卒業。
札幌市立大学大学院デザイン研究科デザイン専攻在学中。山田良准
教授ゼミ所属。建築に限らず様々なものに興味を持ち、色々なものを
デザインできるデザイナーになるために日々勉強中。
2014年 HOKKAIDO GARDEN SHOW 2015 DAISETSU 入賞
2015年 札幌市立大学開学10周年記念事業プロポーザル
最優秀賞(三木翔平と共同)



ロゴマーク デザイン学部メディアデザインコース1期生 木村 尚史



島山 慎吾 『Heartbeat Forest』

編集後記

▶ デザイン学部・大学院デザイン研究科 講師 松永康佑

のほほん第9号のテーマは「2020を思い描く」です。2020年のオリンピック開催
地に東京が選ばれ、日本に久々のワクワクが訪れているのを感じます。2015年は新国
立競技場問題が世間をにぎわせたが、5年後という少し遠い将来が、一気に近い未
来として全国民が意識し始めたのではないのでしょうか。

1964年の東京オリンピックから56年という歳月を経て、日本や私たちの身の回り
の環境がどのように変わってきたか、また、これからの将来どのように変わっていくか、
幅広い年代の先生方を中心に自由に語っていただきたく、今回のテーマ設定となりま
した。

2020年まであと4年。これを読んでいる多くの学生は社会へと旅立っていること
かと思えます。本学も開学10年目の節目を迎え、変革を迎えようとしています。図書
館も今夏にシステムの更新を控え、利用者の利便性の向上が見込まれています。

今年度、図書館では「スイスデザイン ル・コルビュジェを学ぶ」や「Fashion is Passion」
などの企画展示を実施してきました。今後も、図書館を学ぶ場として、より広く活用し
てもらえるような提案を行っていく予定です。2020年の図書館は、今よりもっと活用
される場となっていることを期待しています。

札幌市立大学附属図書館ニュースレター

のほほん第9号

編集 札幌市立大学図書館運営会議
編集委員 町田佳世子 張 浦華 松永 康佑
原井 美佳 櫻井 繭子

発行日 2016年1月22日

発行 札幌市立大学附属図書館
〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目
事務局 地域連携課 図書館担当
TEL.011-592-2346

制作・印刷 三浦印刷株式会社

ご感想をお聞かせください。
library@scu.ac.jp

特集 「2020を思い描く」

2020栄光と挫折の陰でー自由意思の問題ー
札幌市立大学附属図書館長 山本 勝則

目黒のサンマ
札幌市立大学デザイン学部・大学院デザイン研究科 教授ー 酒井 正幸

2020を思い描く〜セーフな場で自由に語ること
札幌市立大学看護学部・大学院看護学研究科 教授ー 川村三希子

21世紀老年
札幌市立大学デザイン学部・大学院デザイン研究科 教授ー 石崎 友紀

ライフスタイルに合わせて楽しむ
札幌市立大学看護学部・大学院看護学研究科 准教授ー 貝谷 敏子

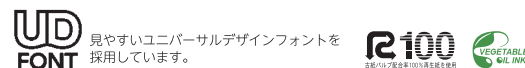
Think different : 2015→2020
札幌市立大学デザイン学部 講師 大淵 一博

将来を見通す道標としての書
札幌市立大学看護学部 助教 小田嶋裕輝

2020のすこし先
札幌市立大学デザイン学部 助教 須之内元洋

情報化社会における図書館
札幌市立大学附属図書館 図書館専門員 平 紀子

札幌市立大学附属図書館情報 カウンターの内側からの紹介図書
学生の本にまつわる話
図書館情報・企画展示『スイスデザイン ル・コルビュジェを学ぶ』
附属図書館 貸出・視聴ランキング



札幌市立大学
附属図書館
SAPPORO CITY UNIVERSITY



http://www.lib.scu.ac.jp/

2020栄光と挫折の陰でー自由意思の問題ー

札幌市立大学附属図書館長
山本 勝則

筆者紹介

看護学部・大学院看護学研究科 精神看護領域 教授
精神看護領域において、シミュレーション、コミュニケーションと他者理解、メンタルヘルスなどを中心に研究活動を行っています。認知症グループホームの研修会や講演会、公開講座などを通して地域と関わっています。

イラスト
デザイン学部3年
神谷 直子



人の意思は様々な様相を見せる。時には美しい姿で現れ、時には複雑な問題を提起する。1996年アトランタ五輪女子マラソンで二度目のメダルを獲得した有森裕子は「初めて自分で自分をほめたいと思います」と言った。前回のバルセロナ五輪でメダリストになってから足の故障、人間関係の軋轢、そして長いスランプと相次ぐ苦難を乗り越えて発せられた言葉であった。人が自分の意思を通す力は感動的である。

人の意思が、この様に社会的に健全で積極的なものである場合は受け入れやすい。しかし、人の意思は反社会的な姿で現れたり、その人自身にとって望ましくない姿で現れたりもする。殺人などの反社会的意思と行動は容認できない。では、自分自身の健康、安全、利益などを考慮しない場合はどうであろうか？そのような意思に我々はどのように向き合うべきだろうか？

人は人間関係の中で生きている。他者と関係なく自分の意思を通すことは出来ない。また、人は他者の意思に様々な形で干渉する。自分自身の健康や安全を顧みない人を見かけた場合、周りの人はそれを放置できず、干渉する。そして、その人(Aさん)にとって良かれと思ってする(Bさんの)行為が、その人(Aさん)の意思に反する場合もある。つまり、Bさんは、Aさんを大切に思うがゆえに、Aさんの自由意思に反した行為をする。これは正しいのだろうか？

医療の世界では長い間そのように考えられてきた。専門知識を有する医療者が決定権を持ったり、家族が本人に代わって意思決定をしたりすることが日常茶飯事であった。

昨今、その考え方はパターナリズム批判の中で変化しつつある。例えば、主治医以外の意見を聞くセカンドオピニオンやadvance directive(自分が将来、病気などにより医療や介護を受ける時の意思を指示しておく)などが導入された。

しかし、なかなか方向を見出せないものもある。自分の意志で路上生活をしている人たちがセルフ・ネグレクト(生活を維持するために必要な行為を行わず食事や医療を拒否し不衛生な生活を送る)とみなされる人たちの意思をどこまで尊重するかという問題は、判断の難しさが際立つ。

ある日、学生たちが私の研究室に来て「路上生活者の血圧測定をするボランティア」の意味について議論を始めた。最初にC君が「先週ボランティアの一員としてホームレスの人たちの支援をしてきた」と言った。「何をしたの?」と私が訊くと、「血圧測定です」と答えた。それに対して、D君が「ホームレスの人たちの血圧測定なんて意味がない」と嘯みつけた。C君は面食らった様子で「どうして?」と質問した。D君は「好きで路上生活しているのだから干渉しない方が良い」と言う。C君は「…」答えに詰まった。するとE君が「意味がある。誰だって健康は大事だよ」と、C君に代わって答えた。D君は「血圧測定なんかしたってその場だけで、その後自分では何もしなければ変わらない」と言う。そこに、F君がやってきて、「好きで路上生活している人の場合はいらないうと思うけど、しかたなく路上生活している人もいます」と言った。その後「好んで路上生活している場合は本当に血圧測定が必要か?」という議論になった。

この最後の議論と類似した問題が注目され始めた。岸恵美子氏が、自分の健康や安全を顧慮しない人々について二冊の本を著した。一冊は『セルフ・ネグレクトの人への支援 ゴミ屋敷・サービス拒否・孤立事例への対応と予防』(中央法規2015)であり、もう一冊は『ルポ ゴミ屋敷に棲む人々 孤立死を呼ぶ「セルフ・ネグレクト」の実態』(幻冬舎新書2012)である。

世界の大都市東京には、多くの路上生活者やセルフ・ネグレクトの人たちがいる。2020年東京オリンピック・パラリンピックの時、強い意志を持つアスリートたちの栄光と挫折の陰で、会場の周辺に暮らす路上生活者やセルフ・ネグレクトの人たちの意思はどのように処遇され、どのように支援されるのだろうか？

書籍情報

岸恵美子『セルフ・ネグレクトの人への支援 ゴミ屋敷・サービス拒否・孤立事例への対応と予防』中央法規, 2015

岸恵美子『ルポ ゴミ屋敷に棲む人々 孤立死を呼ぶ「セルフ・ネグレクト」の実態』幻冬舎新書, 2012

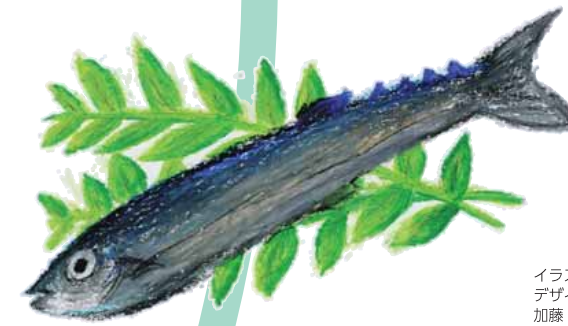
目黒のサンマ

札幌市立大学デザイン学部・大学院デザイン研究科 教授
酒井 正幸

筆者紹介

製品デザインコース 教授
プロダクトデザインやユニバーサルデザインが本業なのに、デザインが学際的領域であることをいいことに、動物園デザイン、地域デザイン、生物デザイン・・・と次々に守備範囲を拡げ取捨がなくなっている。間もなく高齢者の仲間入り、いつ電車内で席を譲られてしまうのかと、そればかりを恐れている。

イラスト
デザイン学部3年
加藤 芽衣



私の生年は1950年、引き算をするときにとても便利な数字である。さて、お題は5年後の2020年、そこで・・・2020マイナス1950は?・・・えっ!と、一瞬絶句!だが、現実には素直に受け入れねばなるまい。ところで、いまから5年後を現在から予測しても短期的なトレンドしかわからない。そこで、逆に10年ぐらい遡って、そこから今に至るまでどのように世の中が変化してきたかを知ることにより、その延長線上にある2020年を予測することができるかもしれない、思い至った。

世の中には、昔から未来のライフスタイルの予想を飯のタネにしてきた方々がいる。例えば、私の手元にある博報堂生活研究所が2004年に発行した『生活予報』もそういう方々の成果物のひとつだ。タイトルを見ると『生活予報2004 2012年 欲 ヨリカカリ』とある。今から約10年前に8年後の2012年を予測したものだ。趣旨をひとこと言えば、生活や仕事上のストレスに疲れ果てた人達が次第に大切なことも手を省きたい、人に任せたいという意識が芽生えるようになると予測し、これを「ヨリカカリ」というキーワードで表現している。いわれてみれば、この予測どおり、今まさに、多くの人がそのようなライフスタイルになってきているのではないだろうか。長い歴史を見れば人間は分業化により、様々なことを人任せにすることで、専門性を高め、技術やサービスの高度化が図られ、社会が発展してきた。またこれによって手助けが必要な人々のQOL(生活の質)を高めてきたことは紛れもない事実である。が、一方で、行き過ぎた依存体質は生物としてのヒトの生きる力を弱めているような気もする。

さて、2020年は東京オリンピック・パラリンピックが開かれる。ここで一気に最初の東京オリンピック・パラリンピックが開催された1964年までさかのぼってみよう。1964マイナス1950・・・私はまだ中学生であった。私はその頃、千葉県の小さな町に暮らしていたが、当時の東京の下町の暮らしを描いて大ヒットとなった映画『ALWAYS 三丁目の夕日64』と似たような生活環境であった。その頃の人々は、自分自身が主体となり、場合によっては友人、親族、隣近所の力を借りて引越いや、育児、掃除、道具や設備の修理、隣近所のトラブル

処理、冠婚葬祭、その他生活上のさまざまな行為を行っていた。ところが、今はどうであろう、引っ越しや、家事全般、冠婚葬祭も専門業者が全て引き受けてくれる。交通事故を起こせば、相手方との面倒なやりとりは全部保険会社がやってくれる。そのうち恋愛まで代行してくれるんじゃないだろうか?いや、これは冗談ではなく、最近の調査によれば若者が結婚したくない理由のひとつに「恋愛が面倒」というのがあげられているそうだ。

これは、自分自身に対する反省でもあるが、様々な生活上の現場を人任せにしてわずらわしいことから解放され、本当に生活は豊かになったのだろうか?もしかしたら落語の目黒のサンマの話のような、脂や内臓をかき取られ、残りかすの不味いところだけを毎日味わってはいないだろうか?ネット上で表層的な体験をするより、リスクはあっても現場の具体的な体験の方がはるかに面白いのに・・・

人類がこれから生き残るためには現場を回避せず、そこに生きがいを感じる人材を増やすことが大事である。特に医療介護現場や製造・制作現場を対象とする看護やデザインの教育現場はなおさらであるような気がする。

さて、お薦めの図書は『ファール昆虫記』である。いままでの話と一見無関係のようであるが、そうでもない。この著者の出身国フランスではさほど有名ではないようであるが、日本では誰もが知っている本である。ファールは齢90でなくなるまで、現場一筋で昆虫観察を続けた。中でもこの第1巻は動物の糞を餌にするいわゆるフンコロガシを扱っていて興味深い。当然、観察現場は臭いし、舞台である南フランスの夏は暑い。そのような現場の地面に腹這いになり日が一日観察を続けた。彼の偉いところは、単に観察するだけでなく、現場で様々な実験を試みていることだ。その目の付け所、実験の方法にオリジナリティがあり、彼は卓越したデザイナーと呼んでもいいかもしれない。

書籍情報

J・H・ファール著、山田吉彦・林達夫訳『完訳ファール昆虫記(1)』岩波文庫, 1993

2020を思い描く～セーフな場で自由に語ること

札幌市立大学看護学部・大学院看護学研究科 教授
川村 三希子

筆者紹介

成人看護学領域（がん看護）教授
専門は緩和ケアとエンド・オブ・ライフ・ケア。認知症とがんを併せ持つ高齢者の疼痛アセスメントに関する研究、がんサバイバーのサポートグループの運営に取り組み、がんになっても安心して暮らせる街づくりの一助となるよう活動している。

イラスト
デザイン学部3年
原口 堯子

最近yogaを習い始めました。片足でバランス立ちしポーズをとるyogaではありません。呼吸法や瞑想（マインドフルネス）中心のyogaです。呼吸法や瞑想は、過去や未来に心を煩わされることなく「今」に集中し、自分の体や気持ちを様々な現実からリセットする効果があるようです。失敗してしまった過去の事はとっと忘れ、将来を憂い心煩わすことなく、心静かに毎日を過ごせるよう、目下練習中であります。

さて、そのような中で今回頂いた「2020を思い描く」というテーマは、先のことを考えないようにする練習をしている私にとっては、悩ましいお題でした。何か話題はないかとテレビをつけてみましたが、いじめによる自殺、杭打ちデータ偽装問題など、記者会見で深々と頭を下げ詫げる背広姿ばかりが映し出されます。そういえば最近、誰かが誰かを責め、責められた人は詫げ、詫げた人はまた誰かを責めるといった負のスパイラル現象が起きている気がします。常に緊張感を持たないと私のような人間は生きていけない感覚に見舞われることもあります。もっと安心して、のほほんと暮らしていける世の中だといひのこ。

2020を思い描いたとき、そして人を育てることを通して思うことは、もっと互いが救い合えるような場づくりができないかということです。今回は、せっかくこのような機会を戴いたので、私が今、大事にしたいと思っている「セーフな場で自由に語ること」について、著書、そして一つの考え方を紹介しながら少しだけお伝えさせていただこうと思います。

まず、10年ほど前に手にした私の好きな本、「べてるの家の“非”援助論」と「安心して絶望できる人生」を紹介します。タイトルからして風変りなこの本は、北海道浦河町にある、精神障害を抱えた人たちの有限会社・社会福祉法人「浦河べてるの家」から発行されています。「浦河べてるの家」では、「三度の飯よりミーティング」「弱さを絆に」「安心してサボれる会社づくり」をキャッチフレーズに精神障害を抱えた人達が、自分を取り戻すために暮らしています。ここには、幻聴や妄想を語り合う「幻覚&妄想大会」があり、「失敗してもいい」「不安があっても当然」「悩みや苦労を取り戻そう」といった逆転の人生哲学があります。精神障害をもつ人たちが、その語るに値しな

いと封印してきた自らの歩みを自分の生きてきた歴史として語るとき、無意味であった日々が意味をもちはじめ、語ることを通じて、人と人が新たなつながりを得るとい実話が描かれています。ここには、語ることによって人が救われ、助けられないという助け方があるのです。

もうひとつ、「Safe Community of Inquiry」という考え方について紹介します。こどもの哲学：philosophy for childrenの先進的地域の1つであるハワイ大学のT. ジャンクソン教授による対話実践に由来する考え方です。ここでいう「セーフ」は、防御や防衛によって守られた安全圏のことではなく、むしろ逆にリスクを恐れず、強がりや執着、恐れや不安から解放された知的な態度を指します。そして、セーフなコミュニティとは、脅かされず多様な関わり方が認められ、考えたいこと、語りたいたいことを安心して語れる場を指します。自分や他人の考えのなかにある根本的な「価値」や「前提」の違いに気づくことによって、それを一緒に問い、考えていくことがセーフなコミュニティでの対話とInquiry(探求)です。

両者の共通点は「語る」こと、そしてその場が「安全である」ことです。弱さや問題を認め、マイナスと括られる面をも社会の力としていくこと、そして、自分の執着や枠組みといった前提に気づき、他者との違いを認め多様な価値観を認めていくことです。もっと安心して悩み絶望できる2020になりますように…。

書籍情報

浦河べてるの家『べてるの家の「非」援助論—そのままのままでいいと思えるための25章』医学書院、2002
向谷地生良、浦河べてるの家『安心して絶望できる人生』生活人新書、2006

札幌市立大学デザイン学部・大学院デザイン研究科 教授
石崎 友紀

筆者紹介

製品デザインコース 教授
専門は道具学「人間が（よりよく）生きるために必要な人工物」の研究。
教育信条「手に職を、知を足に付ける」「難しいことをやさしく、深いことを楽しく伝える」。味覚は甘口、言葉は辛口です。

イラスト
デザイン学部3年
ニツ森 花織

未来社会の予測は至難です。学際的に理論と数式で解決しても現実社会は複雑ですから外れが多いのです。でも、ハーバード大学の政治学者サミュエル・ハンチントンは1993年に2000年の911テロを暗示した「文明の衝突」理論を発表し、2000年に中国の台頭に翻弄される日本の選択肢を論証した「文明の衝突と21世紀の日本」を発表して予見性の確かさを証明しました。マンガ「20世紀少年」中の「よげんの書」のようでした。

本稿は五年後の近未来考です。まず、プチ温故知新で今から五年前と五年後を考えてみましょう。

- ① 青春真っ盛りの本学の学生さん達は、五年前に五年後をどう思い描いたでしょうか？
- ② 五年前に生を受け、小学校入学を待つ5歳の子供たちと、
- ③ 五年前に10歳の壁を乗り越え、多感な青春を迎える15歳の若者たちと、
- ④ 五年前に入試を終え、社会人や大学院一年生になった23歳の成人と、
- ⑤ 五年前に還暦を過ぎ、65歳の高齢者一年生とでは、夫々が思い描く五年後は大きく異なることでしょうか。

五年後の近未来では、2020オリンピックを契機にインフラが整備されて自動運転が実現しそうですが、五年前に作られた自動車も活躍中でしょう。しかしハイテク関連機器は淘汰が必至です。イベントやマンガ、アニメなどのソフトパワーは現場のモチベーション次第なのが面白くて怖いところです。

さて、グローバル化とは力関係による現実です。
⑤である私を振り返ると、2010年に学会で上海に行き、万博で経済発展を体感しました。将来は日中韓でEUのユーロみたいな共通通貨によるアジア経済連合が出来るといいなと夢想しましたが…その後はリアル「文明の衝突」が続いています。同じ頃、学内の研究交流会で「数値評価で問題解決するデザイン教育だけではモノづくりの知恵が枯渇してしまいます！」「IT技術の進化により、情報と金融の産業はグローバル化しましたが、私たちを取り巻く社会の全てがグローバル化した訳ではありません」「技術は最新に価値があり、文化は最古に価値があります。旧いか新しいかという価値判断で、旧くて良かった沢山のモノ

が失われました」と吠えたら、同僚の原俊彦先生が「君の言っていることを整理する参考になるよ」と教えてくださったのが「人間の自己家畜化を異文化間で比較する」という理論的な論考でした。著者の川田順造先生は「野生の思考」のクロード・レヴィストロースを日本に紹介した人類学者です。道具学会の理事同士という幸運に恵まれ、先生が提唱した「技術文化」「半・プリコラージュ」「文化の三角測量」という概念について直接に薫陶を受けることが出来ました。そして私自身が「半・プリコラージュ・美」「産業技術文化」という概念を提唱するに至りました。五年後に何処まで論証できるかわかりませんが、御縁を与えてくれた原先生に誌上から感謝します。ともあれ、2020年には日本の技術文化の特質である「ちょうど良い具合」で、グローバルなアイデンティティの追求が進んでいたら嬉しいです。

①の皆さんも夫々に「ちょうど良い具合」の2020年を思い描いてみてください。
⑤の私は（結果論的で面白くありませんが）宿命のようなものを感じています。どんな未来かわかりませんが大変そうです。でも頑張ろうと思っています。

さて、2015年に起きたオリンピックエンブレム騒動では、安直なデザイン造形が裁かれました。VWや東芝の不正問題から、数値目標達成に固執したトップのエゴによる結果重視の労働観の弊害と限界が見えました。プロデュースやマネジメント能力の鼓舞だけでは達し得ない、柔軟な創造性の価値を再発見する、素敵な2020年になることを願っています。

書籍情報

サミュエル・ハンチントン『文明の衝突』『文明の衝突と21世紀の日本』集英社、1998、2000
浦沢直樹『20世紀少年1～2』小学館、1999～2006
尾本恵市『人間の自己家畜化と現代』人文書院、2002
川田順造『文化を交差させる』『富士山と三味線 文化とは何か』青土社、2010、2013
クロード・レヴィストロース『野生の思考』『月の裏側』中央公論新社、1976、2014

ライフスタイルに合わせて楽しむ

札幌市立大学看護学部・大学院看護学研究科 准教授
貝谷 敏子

筆者紹介

成人看護学領域 准教授
創傷・オストミー・失禁領域に関するアウトカム研究と医療経済分析を研究の専門としている。臨床指向型研究実践を目指しており、具体的には創傷アウトカム評価指標の一つとして、患者立脚型QOL評価指標の開発や看護技術の可視化を目的として、経済分析の手法を取り入れた評価研究を実践している。

原稿の執筆依頼を頂きましたが、思い起こせば最近読んだ本は教育や研究に関連するもので、自分の読書趣味とはかけ離れた内容ばかりだと改めて感じています。そこで、2020年は、このニュースレターのタイトルのように「のほほん」と過ごし、好きな本をたくさん読んでみたいと、5年後の自分を思い描いてみたいと思います。

好きな作家はと問われると、向田邦子さんの名前が最初にあります。特に向田さんの作品の中では「父の詫び状」がお気に入りです。本から漂ってくる昭和の香りに心地よい和みを感じるのは、私が昭和生まれだからでしょうか？両親から聞いていた生活風景が小説から見えてきて、家族の絆が感じられるところに懐かしさを感じるのかもしれませんが。向田さんの小説にでてくる父親は頑固おやじで、現代の父親像とはかけ離れています。私の父は、向田さんの小説にでてくるような頑固おやじでしたので（今は年取って穏やかになりました）、親近感が持てます。私の娘の父親（夫）とは真逆ですので、娘が向田さんの小説を読んだら、どのような反応をするのか？と考えると楽しくなります。5年後は小学6年生ですから、もしかしたら一緒に本を読んで、感想を聞けるかもしれません。

小学1年生の娘は、絵本が大好きです。最近は絵が少なめで、字が多い本に挑戦しています。絵本の読み聞かせは、胎教として取り入れていましたので、ここ8年間は欠かさずに一緒に絵本を読んでいます。大学図書館の絵本にも随分とお世話になりました。中でも、「おばけのマール」のシリーズの絵本がお気に入りです、「また借りてきて」とリクエストの多かった本です。この絵本は色彩が鮮やかで、大人がみても楽しめる本です。

「ピロードのうさぎ」という絵本は、男の子とうさぎのぬい

イラスト
デザイン学部3年
土屋 慶花

ぐるみの話しです。大切にいたうさぎとお別れの場面が出てきますが、その時の娘の目は、大粒の涙で一杯になっていて、「大丈夫・・・」と声をかけた経験があります。子どもと一緒に本を読んでいると、子供の純粋な気持ちに触れて、心が洗われる気がします。

最後に紹介したい「ちいさいあなたへ」という絵本は、出産のお祝いに友人から頂きました。そのころマタニティブルーになっていた私は、この絵本で元気を頂き本来の自分の気持ちを取り戻せた気がしています。言葉の少ない絵本ですが、大きなメッセージを頂きました。

最近の私は、子育てと仕事に精一杯で、自分の読みたい本を選ぶ余裕がないのが現状です。でも、今回の執筆を機会に改めて読書について振り返ると、今できる読書の形を楽しんでいることに気づきました。これからも、子供と共に読書を楽しみたいと思います。そして、2020年は、どんなスタイルの読書をしているのか？きっとその時のライフスタイルに合わせた形で楽しんでいると思います。

書籍情報

向田邦子『父の詫び状』文春文庫, 2005

げーたろう『おばけのマールとおべんとう』中西出版, 2007

*他シリーズあり

マージェリィ・W・ビアンコ『ピロードのうさぎ』ブロンズ新社, 2013

アリスン・マギー『ちいさいあなたへ』主婦の友社, 2008

Think different : 2015→2020

札幌市立大学デザイン学部 講師
大淵 一博

筆者紹介

コンテンツデザインコース 講師
20数年のアップルユーザで、現在は5台のiMacのほか、多くのアップル製品を使用中。デザイン専門の教員からは「デザインのセンスがない」とダメ出しされることも多々あるが、学生を巻き込んで様々なプロジェクトに関わってきた。専門はシステム開発で、看護分野を始め、異分野におけるICT活用に興味を持っている。

イラスト
デザイン学部3年
加藤 芽衣

こんなタイトルをつけると、今はやりの「パクリ」などと言われ、ネットで炎上しそうですが、「Think different」というのは、Apple（当時はApple Computer）が1997年から使い始めた広告キャンペーンのスローガンです。「これまでとは違った発想で、ものの見方を変えよう」というような意味で、使われていました。

当時のAppleは混乱の真っ只中にあり、一度Appleを追放されたスティーブ・ジョブズがCEOに復帰し、再浮上するためのきっかけを模索している頃でした。そのスティーブ・ジョブズがコンセプトとしてかかげたのが、「Think different」です。Appleはこのコンセプトに基づき様々な広告展開をしましたが、中でも印象的なのは、「The Crazy Ones」(YouTubeなどで探してみてください)。PCは登場せず、モノクロのメッセージ映像なので、最初はAppleのCMとはわからないかもしれませんが、60秒バージョンには日本語版もあるのですが、最後の「自分が世界を変えられると本気で信じる人達こそが、本当に世界を変えているのだから（原文：Because the people who are crazy enough to think they can change the world, are the ones who do.）」(Wikipediaより引用)というメッセージ1つだけでも、心に響くものがあり、深く考えさせられる映像です。

さて、ここまで本の話がまったくでてこないのですが、私はほとんど本を読みません。活字が苦手です。読むのはせいぜいプログラミングのガイド本ぐらい。そんな中、最近読んだ本が「スティーブ・ジョブズ」。購入してから3年もほったらかし(!)にしていたのですが、急に思い立って読んでみました。

21歳で友人とAppleを立ち上げ、パソコンのさきがけと言

える「Apple I」を製作・販売、当時「巨人」と言われたIBMに対抗するまでの企業に成長させます。その後、社内の確執でAppleを追われると、NeXTを設立し、今のMacOSXやWebサーバの基礎を確立します。一方でPixarを設立し、世界初のフルCGアニメーションである「トイ・ストーリー」を大ヒットさせ、世界的なアニメーション企業へと育てていきます。

41歳でAppleに復帰すると、「Think different」をかかげ、iMac、iPod、iPhone、iPadと立て続けにヒット作を連発していきます。デザインに対するこだわりは相当なもので、「Think different」はそんな彼のこだわりを表す端的な言葉であったと言えるでしょう。

彼のプレゼンのうまさは有名ですが、スタンフォード大学の卒業式で行われた「伝説のスピーチ」(こちらもYouTubeなどで)で、彼がスピーチの最後に学生たちに送った言葉は、「Stay Hungry, Stay Foolish.」。改めて考えさせられる言葉です。Hungryな気持ちは持ち続けて行けそうな気がしますが、Foolishなままでいつづけるのは難しいかもしれません。

ジョブズが逝去してから4年、ICT業界はジョブズが予想しないほどのスピードで変革しています。今から5年後の2020年、自分のスタンスはそれほど変わらないような気がしますが、周囲の環境の変化はまったく予想できそうもありません。

ただ、学生のみなさんには、「Think different」の精神をもちながら、これからの世界を切り開いてほしいものです。

書籍情報

Walter Seff Isaacson 著、井口耕二 翻訳

『スティーブ・ジョブズ I・II』 講談社, 2011

将来を見通す道標としての書

札幌市立大学看護学部 助教

小田嶋 裕輝

筆者紹介

基礎看護学領域 助教
看護師として病院・外来経験を積み、北海道大学大学院保健科学院にて慢性看護を学び修士（看護学）を取得。現在、札幌市立大学大学院博士後期課程に在籍中。患者教育、慢性看護が専門である。教員歴3年目。大学人として自立できるように奮闘中。患者さんの物事の捉え方（首尾一貫感）に着目した研究を行っている。

「2020年」は今から5年後である。「5年一区切り」という言葉がある。5年単位で志を立てて大きな目標に取り組んでいくことが大切という意味だろう。かつてのソビエト連邦も「5か年計画」と言われるものがあった。個人レベルにおいても、国レベルにおいても、5年先を見据えて物事を考えていくことの重要性を感じる。

ところで、このように計画立てて物事を進めていくのは人間ならでのことである。つまり、人間が「認識的実在」であることによる必然である。これは、「本能的実在」として、地球に対して受動的にしか生きられない（人間以外の）動物との大きな違いである。人間が歴史を積み重ね、文化と言われるレベルのものを創ってこれたのは、人間の脳の機能に「認識」があることによる。

認識的実在とは、人間が「問いかける」存在であるということだ。これは何だろう、と目的的に問いかけながら生きる存在が人間である。これが人生レベルの「問いかけ」となると、こう生きたい、ということになる。

ところで、その「問いかける」中身は人それぞれだ。パチンコ、スロット、競馬などで勝ちたいと思って（問いかけて）遊技場に通うのも、人類の役に立とうと学者、芸術家になろうとして（問いかけて）行動するのも、（倫理的な観点を除けば）「問いかけ」的観点において優劣はない。しかし、前者と後者の「問いかけ」の決定的な違いは「歴史を生きる存在でありたいか否か」にある。この「歴史を生きる」とは、文化遺産を継承してそれを発展させるべく生きることである。この文化遺産の継承をいかにして行うかに関わる学問が教育学である。

では、この「認識」とは何かが次のテーマとなる。この問いは、身近には心理学のテーマであり、大きくは、哲学上の問題として2000年以上議論されてきたテーマである。そして、その中身は「観念論」の立場から長い歴史において議論されてきた。「観念論」は、物質より観念の先行を認める立場である。したがって、「認識とは何か」を問う場合においても、その原点（いつから認識は誕生するか）を問うことはなかった。というのも、永遠の昔から認識が存在するため、その原点を問う必然がないから

イラスト
デザイン学部3年
原口 堯子



である。一方、観念論の対義となるのは「唯物論」である。「唯物論」は物質より観念の先行を認めない立場である。したがって、必ず認識の「誕生する瞬間」を問うことになる。

両世界観の違いは例えば教育への責任をどうとらえるかにも反映する。具体的には、「観念論」の立場からは教育への責任は強く問えない。というのも、教育の結果が悪くても、「その人の持って生まれた性質（認識）が悪いから」と逃げられるからである。「唯物論」の立場からはそうはいかない。認識には「誕生する瞬間」があり、そこを原点に、人間社会の中で「育まれて」人間になると徹頭徹尾考えるからである。先天的なものにせいでできない分、教育した結果への責任が厳しく問われることになる。

「育児の認識学」（海保静子著、現代社）はそんな認識の生々・生成発展を「唯物論」の立場から説いた世界初の書である。この書は、どのように人間を「育むべきか」について指針を与えてくれる。この書は、認識に関わってのあらゆる実践に役立つ。というのも、「事実」から「論理」を導きだし、その論理を「体系化」して「理論化」したのがこの書だからである。実際に私はこの書より育児を行い関わりの方角性を見出している。また、この書は、個の認識、社会（時代）の認識を「識る」実力の養成に資すると思う。というわけで、個・社会・国の豊かな未来を思い描き、行動するために、この書を強く推薦する次第である。

書籍情報

海保静子『育児の認識学ー子どものアタマとココロのはたらきをつつめてー』現代社、1999

イラスト
デザイン学部3年
水石 公基



東京オリンピック・パラリンピックに向けた動きがいよいよ本格始動しているようです。五輪開催を契機に、2020年のその先を見据えて注目したい2つの動きについて、紹介したいと思います。

■ ソーシャルメディア活用による社会インフラ改革

オリンピック・パラリンピックの開催にむけては、日本への来訪者をおもてなしするための、様々な社会インフラ改革が要請されます。例えば、2015年の夏以降、度々ニュースの話題にあがる「民泊」の解禁は、そうした試みの一つです。

日本で民泊に関する議論の大きなきっかけとなったのが、サンフランシスコ発のコミュニティ・マーケットプレイス Airbnb（エア ビー・アンド・ビー）の進出です。このソーシャルメディアでは、ユニークな宿泊施設を誰でも掲載・発見・予約することができます。ネットワークを介して信頼でつながったホストとゲストが約束をし、ゲストはホストが提供する宿泊施設に滞在し、もてなしを受けることができます。価格メリットの享受を一番に挙げるユーザーもいますが、宿泊施設やホストのユニークさ、ホストによるホスピタリティが何よりの魅力です [1]。

ところで、他人を自宅に泊めて対価を得る民泊は、日本の法律では違法といわれています。厳しい規制をクリアして業を営んでいる旅館やホテルからすると、規制のない民泊は許容しがたいでしょう。しかし、ホストとゲストが事前に十分な意思疎通を行い、ゲストの滞在がより豊かなものになるよう、ホストがその人となりで、思いやりを持ってゲストをもてなすならばどうでしょう？ もはや民泊は旅館やホテルと単純に比べられる対象ではなく、来訪者に唯一無二の豊かな体験を提供し、世界に文化的多様性をもたらす、新たな社会インフラであると言えるでしょうか？ 近隣住民への配慮や、単に金銭目当てのホストをどう扱うかなど解決すべき課題はありますが、東京都大田区はいち早く民泊を解禁、その他の自治体でも民泊解禁の検討がすすんでいます。市民一人ひとりがホストとして地域の語り部となり、ゲストに唯一無二の豊かな体験を提供する。ソーシャルメディアによってはじめて可能になった地球村の未来像です。

2020のすこし先

札幌市立大学デザイン学部 助教

須之内 元洋

筆者紹介

メディアデザインコース 助教
ソニー、サイボウズ・ラボを経て現職。メディア環境学、情報科学、音の環境学が専門。デジタルアーカイブなど各種デジタルメディアの設計・開発、メディア・アート制作を実践する。SIAF2014プロジェクトマネージャー、Tokyo Art Research Lab（東京都）の研究・開発プロジェクト監修など、研究成果の社会還元にも取り組む。

■ 文化プログラムとしての2020

オリンピック・パラリンピックはスポーツの祭典として知られますが、オリンピック憲章 [2] には「スポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探索するもの」と明記されています。デザイン・芸術に携わる者として、五輪とどのように関わり、社会に貢献できるかを考え、それぞれが実践できることがありそうです。

東京都が2015年3月に発表した「東京文化ビジョン」 [3] は、2015年から2025年の10年間をターゲットにした、文化都市創出のためのコミットメントです。文化プログラムとしての五輪を理解し、自身との関係、社会や生活へのインパクトを想像してみるのに格好の素材です。例えば、あらゆる人が芸術文化を享受できるための社会基盤の構築、新進若手を中心とした多様な人材の発掘、社会や都市課題への芸術文化活用、先端技術と芸術文化の融合による創造産業の発展・変革など、8つの文化戦略が提示されています。学生諸氏にとっては、それぞれの社会参画を試みる絶好の機会となるのではないのでしょうか。

もてなしの文化、培われた人材やノウハウは、2020以降も継承され、東京だけでなく日本全体の大きな資産になるはず。ゴールは2020ではなく、その先に、次世代に、どんな文化レガシー（長期にわたる、特にポジティブな影響）を継承できるかという視点を大切にしたいと思います。

書籍情報

近藤雄生『旅に出ようー世界にはいろんな生き方があふれてる』岩波ジュニア新書、2010

* 学生の間に知らない土地へ旅をすることを強くお勧めします！

脚注

1. Airbnb ホスピタリティとは何か
<https://www.youtube.com/watch?v=0iiTWsxsjRU>
2. オリンピック憲章
<http://www.joc.or.jp/olympism/charter/pdf/olympiccharter2014.pdf>
3. 「東京文化ビジョン Tokyo Vision for Arts and Culture」、東京都、2015/3 発行
<http://www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/jyorei/summary.pdf>

情報化社会における図書館

札幌市立大学附属図書館 図書館専門員
平 紀子

筆者紹介

ヘルスサイエンス情報専門員上級/博士 (教育学)
研究分野：図書館情報学、看護情報学
特定非営利活動法人日本医学図書館協会、日本薬学図書館協議会の理事として医療系大学図書館員の継続教育、医療従事者の生涯学習、および地域連携事業活動に関わる。
北海道医療大学総合図書館 (1977.1~2012.9)
札幌市立大学附属図書館 (2012.10~現在に至る)

イラスト
デザイン学部3年
水石 公基



IT時代の図書館は今後どのような変化を遂げるのであろうか。情報化社会の図書館が持つべき機能、役割とは何か。

本稿では、医療情報の提供を担うヘルスサイエンス情報専門職の視点から、出会った一冊の本からのメッセージと共に、筆者のこれまでの活動を振り返り将来の展望を描く。

北海道医療大学に勤務し、図書館マネジメント業務を行う中で2004年から2012年は大学図書館の地域連携事業に取り組んだ時期であった。この頃の私は、一般市民や医療従事者が正確な質の高い医療・健康情報を入手するための地域のシステムづくりを模索していた。

一般市民向けの情報提供として、大学図書館と公共図書館による「わかりやすい健康に関する情報講座」を開催した。この講座は5年後に終了となるが、その後、日本薬学図書館協議会が主催する地域連携事業活動として行う医療・健康情報シンポジウムの開催に繋がっている。

2008年から2010年、医療従事者を対象に行った情報ニーズ調査をもとに、平成20年度文部科学省社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム「地域格差のない医療情報提供のための薬剤師・看護師プログラム」を開講した。この頃、他の大学図書館においても、地域に積極的に関わり、活動の幅を広げる事例が多くみられるようになっていた。

「未来をつくる図書館—ニューヨークからの報告」(菅谷明子著、岩波新書)、この書との出会いは、地域の医療・健康情報提供システムのあり方について考えを進める大きな一歩となった。アメリカの公共図書館のもつ役割の報告と、これからの図書館がもつ機能・役割の可能性を書いている。また、そこには、司書が自ら地域の中で発信型図書館を作るために活動する姿が描かれている。図書館は本を貸し出すだけでなく、新しい「知」を生み出す可能性を秘めた場所であると記している。2003年の著作で当時のアメリカ・ニューヨークの状況が書かれているが、

現在の日本でもまだ追いついていない面が多々ある。

そこで、考えなくてはならないのが図書館員のもつ専門性である。我が国での司書養成教育のあり方は長く議論されているが大きな制度の変更はなく、公共図書館、大学図書館等に勤務する図書館司書の専門性は米国に比べ決して高いものとはいえない。また、近年では正規職員から非正規職員への移行が顕著で、さらに電子資料が主体となりエンドユーザー自らが情報リテラシーを高め、図書館員によるリテラシー支援サービスが低下している状況も否めない。

特定非営利活動法人日本医学図書館協会は、法人化を機に認定資格(ヘルスサイエンス情報専門員)を創設し、医療系図書館員の専門性の向上に力を注いでいる。専門職能力開発プログラムの策定を既に終え、新プログラムによる医学図書館員の研修が2016年から開始される予定である。一般市民の医療・健康情報への関心が高まり、公共図書館での医療情報提供サービスも珍しいことではなくなってきている。医療系図書館のヘルスサイエンス情報専門員が公共図書館を支援し連携することで、市民のニーズに対応する。それにより、また図書館員の活躍が期待される。

今後ますます進む少子高齢化社会の中で、一般市民は健康で長く幸福な生活をつづけるために、市民が必要とする多様な情報を地域の公共図書館に求めるであろう。公共図書館や大学図書館は垣根を無くし、フラットなワンストップ型の一般市民向け情報提供サービスの拠点となることが望まれる。2020年には図書館が地域の情報センターとして、より質の高い情報サービスが提供できることを思い描いている。

紹介図書

菅谷明子『未来をつくる図書館—ニューヨークからの報告—(岩波新書)』岩波書店、2003

『流星ワゴン』

重松清 著 講談社 2005 芸術の森 1F 文庫新書 913.6/Shi | 桑園 文庫・新書 913.6/Shi

芸術の森キャンパス・ライブラリー司書
菅原 優香

「流星ワゴン」と私の出会いは、中学生の時でした。書店のあまり目立たない場所でたまたま出会い、「読んでみたい!」と直感的に感じ購入してみた、というものです。今では私の大好きな一冊となっています。

主人公のカズは、とある親子が運転する車に乗って現在から過去までタイムスリップし、過去をやり直すチャンスを与えられます。自分にとって大切な場所、大切な瞬間を巡るドライブを続けていく中で、カズはどんな瞬間を見て、何を感じ、どうなっていくのでしょうか。

ちなみに、ドライブに使われる車種「オデッセイ」には「長い冒険の旅」という意味があるそうで、そこまで細かい設定があることに私は衝撃を受けました。

今までに何度か読み直しているのですが、その時その時の自分によって、いつも違う気持ちになれるので新鮮です。知らず知らずのうちに、主人公を自分と置き換えているからなのだと思います。きっとまた、ふと読みたくなり、手に取って読み直しては、自分の生き方をじっくり考えてみるのでしょうか。「流星ワゴン」はそんな存在です。私に、「一日一日を悔いのないよう大切に生きることを」を教えてくださいました。

舞台化・ドラマ化もされているので、もしかしたら内容をご存じの方がいらっしゃるかもしれませんが、やはり原作が一番良いなと私は思っています。舞台やドラマでご覧になった事がある方もそうでない方も、是非一度、お手に取ってみてください。読み終わった時には、とてもあたたかい気持ちになるはずですよ。芸術の森キャンパス・ライブラリー、桑園キャンパス・ライブラリー共に所蔵しています。

私にとって、ずっと傍に置いておきたい一冊です。

イラスト
デザイン学部3年
神谷 直子



『海』

小川 洋子 著 新潮社 2006 桑園 文庫・新書 913.6/Oga | 芸術の森 2F 開架 913.6/Oga

桑園キャンパス・ライブラリー司書
及川 歩

「海」は七篇の作品からなる短編小説集です。長編小説のような複雑なあらすじや、物語の進行に伴う登場人物同士の人間関係の大きな変化がないため、混乱せず、すっきりと落ち着いて読むことができます。長編小説がお好きな方には展開も文字数も物足りないかもしれませんが、仕事や授業の前、寝る前など、気持ちを落ち着けたいときに読むのにちょうどいい長さで静けさを備えた一冊としてご紹介いたします。

七篇すべてが人と人との交流を軸に描かれており、魔法使いや超能力者等は出てこないのにどこか不思議な雰囲気を持ち、独特な読後感を与えてくれる魅力的なお話です。

表題作「海」には海のものだけを材料とし、海からの風がなければ奏でられない『鳴鱗琴』という幻想的な楽器が登場します。この楽器の演奏者は世界にひとりしかいません。主人公は演奏者ごとく自然な成り行きで出会い、静かな交流を持ちます。

どの作品においても物語は静かで、登場人物同士がお互いを理解するために言葉はあまり大きな意味を持ちません。同じ場所において同じ時間を共有することで、相手にとって大切なものを知っていく様子がゆったりと描かれています。中でも、幼稚園バスの運転手と園児の交流を描いた掌編「缶入りドロップ」と、言葉を発さない少女とホテルのドアマンの交流を描いた短編「ひよこトラック」は、けて押しつけではない、ささやかな思いやりが優しく心に残ります。

静けさを魅力として紹介してきましたが、冒険がないわけではありません。最後に収められた短編「ガイド」では、依頼人の思い出に題名をつける『題名屋』を伴った少年に城郭や湖のある素敵な街を案内してもらえます。

タイトルも装丁も涼しげで、夏に読む本かに思えるのですが、季節を問わずゆったりと楽しめる一冊です。

本の時間、自分の時間

札幌市立大学デザイン学部4年
バレット・エイミー



イラスト
デザイン学部3年
土屋 慶花

アメリカ、オレゴン州ポートランドにて一年間暮らした時、本と人との距離感がとても近いことに驚いたのを覚えています。短い夏の間になると公園の芝生に寝転んでゆったりと読書をする人々をよく見かけます。髭が生えたタトゥーだらけの人も、髪が紫な女の子も。古本と新しい本とが入り混じっていて、zine も一緒に置かれている、街で一番大きな本屋さんが、働いていたコーヒーショップの近くだったこともあって、本屋帰りで本を小脇にお店にくる人もたくさんいました。本屋さんは週末や雨の日になると大混雑！びっくりするほどの数の本を抱えた人でごったがえします。床に座って読み始める人がいたり、やっぱり自由です。コーヒーショップでは親の隣で子供たちも買ってもらったばかりの本にかじりついていたりと、本が生活の一部として自然と入り込んでいた印象でした。昼下がり、バーでビールを片手に本に没頭している人を見て以来、私もその至福の時間を楽しむ人の一人になってしまいました。お酒の力も働いて、想像が膨らみ本の中の物語と現実との境界線がわからなくなるくらいで、自由奔放に想像できることが本の楽しみなのだあらためて感じたのでした。隙間時間に本を読む努力をするというのではなく、ゆったりと本を読む自分だけの時間を持つことの豊かさや何にも邪魔させないスタンスがとっても好きです。

本を読むことに環境と時間を惜しまないポートランドの人から学んだ私のお気に入りの本の読み方があります。晴れた日にはお気に入りの本を一冊、カバンにしまい込んで携帯も時計も家に置いていきます(ここが肝心!)。あとは水筒と敷物だけ! 準備ができたなら出発です。近くにある農業専門学校の芝生(北大もおすすめ)にお邪魔して心ゆくまで本を読みます。北海道の並木道と芝生にはシャーロックホームズやハリーパーターなどのイギリスの小説がおすすめです。主人公たちが今にも走っ

てきそうワクワクします。曇って寒い冬の日には布団に潜り込んだまま暗くした部屋で暖かいお番茶を片手に吉本ばなのTUGUMI や伊丹十三の女たちよ! を読んでみましょう。日本語の面白みに驚き笑い、そして切なくなったり。止まらなくなって夕方頃からお湯割に切り替わってしまうことも多々あります。でもいいのです、自分で決めた、自分のための、自分だけのための本の時間なんだから。ちょっと反省するけど後悔はさせませんよ。

書籍情報

小田実『何でも見てやろう』河出書房新社、1961
(講談社文庫、1979)

この本はちょうどアメリカに出発する時に大学の先輩が貸してくれた本でアメリカで何度も繰り返し読んだ本の一つです。地球上のありとあらゆる人、物、事を何でも見てやろうと世界中を飛び回った鮮明で匂いまで本から漂ってきそうなこの本が1961年に出版されたという事に驚くと思います。あんまり多くの事を言うのはつまらないので内容は読んでのお楽しみ! でもひとつ言えるのはこの本を読んでいる時間があるのなら、飛行機のチケットを買って今すぐにも日本から飛び出なければ! と思わせるようなパワーがあるということです。インターネットはもちろん、国ごとの情報が行ってしまってもわからないような場所にお金もほとんどないままに行くこの人の勇気と思切りの良さに惚れ惚れしてしまいます。人としての魅力が素晴らしいので色んな国で女の子と仲良くなる彼がきっと羨ましく感じられるでしょう。

近未来を想像して思うこと

札幌市立大学看護学部3年
高橋 遥



イラスト
看護学部3年
二ツ森 花織

オリンピックが開催される年である2020を思い描くというテーマについて考えたとき頭に浮かんできたことは、社会人3年目になっているであろう自分自身についてと今の社会についてであった。最近では東京オリンピック開催に向けて準備が進められている中で、エンブレムの盗用や国立競技場の建築計画が白紙にされた問題、安全保障関連法案の採決に伴い、集团的自衛権の行使が可能となったニュースをよくテレビで見かける。今まであまり行政に関心がなかった私も最近では日本で起きていることを他人事にせず向き合っていかなければならないと感じており、特に安保法についてはデモの様子をテレビで見ている。自分は賛成反対どちらなのだろうかと考えていた。その時にニュースキャスターが話していた内容が印象に残っている。「賛成派は日本を守るためにも武力行使すべきであると主張し、反対派は再び戦争をして多くの犠牲者を出したくないため安保法の否決を主張している。一見対比しているが両者とも平和を願っているのは同じである。反対派はただ戦争反対と訴えるのではなく、反対するのであればどのような方法をとってこれからの日本を守っていかなくてはならないのかを意見することも必要である。」という言葉である。ただ反対するだけでは埒が明かないためそれに代わる案を出すという意見にハッとした。私は自分の意見を主張することが苦手で、賛成反対に挙手するときも、いつもあまり深く考えず周りに合わせて手を挙げていたような気がする。それに関連して、以前議論について書かれた「当たり前前の方ができる人、できない人」という本を読んだ。この本は社会人として生きていくために必要な能力について、社会人、ビジネス、社会生活の心得を挙げ、最後には志をもって生きよというメッセージが書いてある。ビジネスの心得の中で、議論をするときには共通の目的を認識すべきであるという項目があり、議論を解決へと導くためには、ひとつの結果のために様々

な方法話し合うことが大切であると述べられている。このような方法は看護師として働くときに必要となってくると考えられる。患者の安全安楽のため、よりよい看護の提供のために看護師同士、またはチーム内で話し合いをする場面では、自分なりの考えについて根拠を持って相手に伝えることが重要であり、話し合いの質を高めるためにも積極的に意見を発することが求められると考える。ニュースキャスターの言葉や本から受けた刺激から、最近はそのような積極的な姿勢をもった看護師になりたいという具体的な将来像について思い描いている。

理想の看護師になるためにも、もう残り少ない大学生活ではあるが、様々な経験を積んでいきたいと考えている。授業内でのグループワークに積極的に参加して自分の考えを伝えるよう努力したり、様々な年代の方や、他大学の学生との交流の場への参加やボランティア活動の参加などを通してコミュニケーションを図り、積極性を身につけていきたい。これにより目指す将来像に近づくための準備ができ、社会人として必要な能力を身につけることができるだろう。

5年後という近い将来、大きく変わっていくであろう社会の中でそのときそのとき感じたもの、考えたものを大切にしながら、理想像に向かって少しずつ社会人としての能力を高めていけたらと日々考えている。

書籍情報

松永一雄『当たり前前の方ができる人、できない人』文香社、1998

* この本は、筆者の重ねてきた失敗をもとに、社会人として必要とされ、社会に出て困らないための「当たり前前のこと」について、社会人・ビジネス・社会生活の心得10則の具体的な実学が紹介されている。

芸術の森キャンパス・ライブラリー 企画展示

『スイスデザイン ル・コルビュジェを学ぶ』 2015年9月8日(火) - 10月30日(金)



展示風景



展示ポスター

芸術の森キャンパス・ライブラリーでは、隣接する芸術の森美術館との連動企画展示として、『スイスデザイン ル・コルビュジェを学ぶ』を、2015年9月8日(火) - 10月30日(金)の期間開催いたしました。

スイスデザインのコーナーと、ル・コルビュジェのコーナーを設け、全体で約150点の資料を展示致しました。全て当館で所蔵する資料の展示ですが、ル・コルビュジェ関連資料だけでも120点を超え、大変ボリュームのあるものとなりました。ル・コルビュジェ自筆の手帳のレプリカなど少々珍しいものもあり、これだけの資料が所蔵されている図書館は、国内でも少ないのではないかと考えております。

今回の企画展示も、当館の企画展示ではお馴染みとなった、図書館アルバイトの学生が作成したポスター、オブジェなどで展示のアピールを行うとともに、今回は、アルバイト学生が感じたル・コルビュジェの魅力を伝えるPOPも作成してもらいました。併せて、本学大学院生の研究レポート、「スイス連邦ヌーシャテル州ラ・ショー＝ド＝フォンにおける20世紀初頭のアルヌーヴォーの特徴 ラ・ショー＝ド＝フォンとル・ロククルにおけるル・コルビュジェの初期建築」のパネル展示も行い、企画展示のタイトルどおり、ル・コルビュジェを学ぶ場となりました。

また、開催期間中は学外から、約50名の方にご来館をいただきました。ル・コルビュジェに的を絞った企画展示ということもあり、学外からの見学者が若干少なく終わってしまいましたが、美術館では展示品と

してガラスケースに入っていたル・コルビュジェ全集などを全て直接手に取って見ていただくことができ、期間中、何度か足を運んで下さったル・コルビュジェを師とする方もいらっしゃいました。

企画展示にあたり、司書もル・コルビュジェを学びました。今までは有名な建築家という知識だけでしたが、建築だけでなく絵画作品や著書も多く、その多彩な才能を知るだけでなく、ユニークな人間像もうかがえる資料もあり、偉大だけでなく、大変興味深い人物であると思いました。

ぜひ、この企画展示をきっかけに、ル・コルビュジェを学び続けてもらえればと思っております。

(芸術の森キャンパス・ライブラリー)



スイスデザインコーナー

附属図書館 貸出・視聴ランキング

集計期間: 2014/10/1 ~ 2015/9/30

図書貸出ランキング - 芸術の森 - AV視聴ランキング

- No.1** 統計の世界：物の見方・考え方・心構え
原俊彦著, 原書房, 2011. 芸術の森 1F シラバス図書 417/Har
- No.2** クリエイティブ業界に就職するためのポートフォリオの実例集
4D2A, ワークスコーポレーション書籍編集部編, ワークスコーポレーション, 2011. 芸術の森 2F 開架 674.4/Cre
- No.3** プロのフライヤーレイアウト：映画・アート・音楽・演劇のデザインアイデア
フレア, グラフィック社編集部編, グラフィック社, 2014. 芸術の森 2F 開架 674.7/Fur
- No.4** 人体のデッサン技法
ジャック・ハム著; 島田照代訳, 改訂版, 嶋田出版, 1987. 芸術の森 2F 開架 725/HAM
- No.5** Processing アニメーションプログラミング入門
田中孝太郎著, 技術評論社, 2011. 芸術の森 2F 開架 007.642/Tan
- No.6** ようこそ建築学科へ！：建築的・学生生活のススメ
松田達 [ほか] 編著, 学芸出版社, 2014. 芸術の森 2F 開架 520.7/Mat
- No.7** クリエイティブ業界に就職するためのポートフォリオの教科書
ワークスコーポレーション別冊・書籍編集部編, ワークスコーポレーション, 2009. 芸術の森 2F 開架 674.4/Cre
- No.8** 考具
加藤昌治著, 阪急コミュニケーションズ, 2003. 芸術の森 1F シラバス図書 141.5/Kat
- No.9** デザインの輪郭
深澤直人著, TOTO出版, 2005. 芸術の森 1F シラバス図書 757.04/Fuk
- No.10** 清家清
清家清[著], 新建築社, 1982. (別冊新建築・日本現代建築家シリーズ: 5). 芸術の森 2F 開架 523.1/Sei

総評

今年度はプログラミングやデッサン等についての実用的な資料がよく貸し出されており、目標に向けて熱心に取り組んでいる様子がわかります。今後も技術の獲得・向上に図書館資料を積極的に活用していただきたいと思います。(芸術の森キャンパス・ライブラリー司書 木村)

- No.1** 時をかける少女
細田守監督; 筒井康隆原作; 奥寺佐渡子脚本, 角川書店 (発売), 2007. (kadokawa anime), 芸術の森 1F AV 778.77/To
- No.2** Le Corbusier plans
[edited by] Echelle-1, Fondation Le Corbusier : CodexImages, 2005. 芸術の森 1F AV 523.35/Lec/1
- No.3** コクリコ坂から
宮崎駿企画・脚本; 宮崎吾朗監督, ウォルト・ディズニー・スタジオ・ジャパン (発売), 2012. (ジブリがいっぱいCOLLECTION / スタジオ, 芸術の森 1F AV 778.77/Ghi)
- No.4** Gravity
directed by Alfonso Cuaron / written by Alfonso Cuaron, Jonk Cuaron / produced by Alfonso Cuaron, David Heyman ワーナー・ホーム・ビデオ (distributor), 2013. 芸術の森 1F AV 778/Gra
- No.5** 下荒井兄弟のスプリング・ハズ・カム。= Shimoarai bros. spring has come!
大泉洋脚本・演出, アミューズソフトエンタテインメント (発売・販売), 2009. 芸術の森 1F AV 775/Tea
- No.6** 風立ちぬ
宮崎駿原作・脚本・監督, ウォルト・ディズニー・スタジオ・ジャパン (発売), 2014. (ジブリがいっぱいCOLLECTION / スタジオジブリ制作), 芸術の森 1F AV 778.77/Ghi)
- No.7** Paprika= パプリカ
今敏監督; 筒井康隆原作; 水上清資脚本, ソニー・ピクチャーズエンタテインメント, 2007. 芸術の森 1F AV 778.77/Pap
- No.8** 紅の豚
宮崎駿原作・脚本・監督; スタジオジブリ制作, スタジオジブリ (制作), 2002. (ジブリがいっぱいCOLLECTION / スタジオジブリ制作), 芸術の森 1F AV 778.77/Ghi)
- No.9** WARRIOR：唄い続ける侍ロマン：TEAM NACS
森崎博之原案・演出, 2012. 芸術の森 1F AV 775/Tea
- No.10** デザイナー 水戸岡鋭治の仕事：列車は、走るビックリ箱
NHK出版企画・制作, 芸術の森 1F AV 366.29/Pro/8-10

総評

今年のランキングにも、例年同様多くのアニメーション映画がランクインしました。その中でも一番人気で、今年度「バケモノの子」も公開された細田守監督による「時をかける少女」です。そのほか、今年は新しく演劇ユニット「チームナックス」のDVDがランキング入りを果たし、人気を見せています。(芸術の森キャンパス・ライブラリー司書 熊木)

図書貸出ランキング - 桑園 - AV視聴ランキング

- No.1** 在宅看護学講座
スーティ 神崎和代編, ナカニシヤ出版, 2012. 桑園 開架 492.993/Kan
- No.2** 疾患別看護過程の展開
山口瑞穂子, 関口恵子監修 第3版 学研, 2008. 桑園 開架 492.914/Shi
- No.3** 個別性を重視した認知症患者のケア
松下正明, 金川克子監修 改訂版 医学芸術社, 2007. 桑園 開架 492.929/Kob
- No.4** ウエルネスからみた母性看護過程+病態関連図
佐世正勝, 石村由利子編 第2版 医学書院, 2012. 桑園 開架 492.924/Sas
- No.5** 疾患別病態関連マップ
山口瑞穂子, 関口恵子監修 第3版 学研, 2008. 桑園 開架 492.914/Shi
- No.6** 認知症高齢者の看護
中島紀恵子責任編集; 太田喜久子, 奥野茂代, 水谷信子編集 医歯薬出版, 2007. 桑園 開架 492.929/Nak
- No.7** 根拠がわかる疾患別看護過程：病態生理と実践がみえる：関連図と事例展開
新見明子編集 南江堂, 2010. 桑園 開架 492.914/Nii
- No.8** 発達段階からみた小児看護過程+病態関連図
石黒彩子, 浅野みどり編集 第2版 医学書院, 2012. 桑園 開架 492.925/Ish
- No.9** ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程
太田操編著 第2版 医歯薬出版, 2009. 桑園 開架 492.924/Ota
- No.10** 看護過程展開ガイド：実習記録の書き方がわかる：ヘンダーソン、ゴードン、NANDAの枠組みによる
任和子編著 改訂版 照林社, 2009 (看護学生必修シリーズ), 桑園 開架 492.914/Nin

総評

今年度は「在宅看護学講座」が、「疾患別看護過程の展開」を抑え1位となりました。解説がわかりやすく、実習に適した資料が毎年上位をキープしており、昨年度と比べると認知症高齢者に関する資料が増加傾向にあり、人気となっています。(桑園キャンパス・ライブラリー司書 山本)

- No.1** 全身清拭・陰部洗浄
医学映像教育センター, 2010 (看護教育シリーズ / 実践看護技術シリーズ・清潔の援助技術編; vol. 2), 桑園 AV 492.91/Jis/2
- No.2** パーソナル・ソング = Personal song
マイケル・ロサトベネット監督・脚本・製作 日本コロムビア (発売), 2015. 桑園 AV 493.758/Per
- No.3** 呼吸・心血管・乳房
医学映像教育センター, 2008 (看護教育シリーズ・フィジカルアセスメント; vol. 3), 桑園 AV 492.913/Fij/3
- No.4** 運動機能の発達
医学映像教育センター (発売), 2005 (健康・保健シリーズ・子どもの発達と支援; VOL.1), 桑園 AV 493.91/Kod/1
- No.5** 血圧、脈拍、心拍
山内豊明監督・指導 ビデオ・バック・ニッポン, 2011 (山内豊明教授のバイタルサインの測定), 桑園 AV 492.911/Yam
- No.6** 消毒・滅菌と無菌操作
唐澤由美子, 中村恵原菜; 医学映像教育センター, 2010 (看護教育シリーズ / 実践看護技術シリーズ・感染予防編; vol. 2), 桑園 AV 492.91/Jis/2
- No.7** 消化・神経・成熟徴候・外表
医学映像教育センター, 2010 (看護教育シリーズ / 目で見る新生児看護; vol. 4. 胎外環境への適応生理; 2), 桑園 AV 492.921/Med/4
- No.8** 産褥早期の母親へのアセスメントと支援
鍋田美枝原案; 坂梨薫監督 医学映像教育センター, 2011 (看護教育シリーズ / 産褥経過のアセスメントと支援の実践; vol.2), 桑園 AV 495.8/San/2
- No.9** 行動・対人関係の困難への支援
医学映像教育センター, 2009 (健康・保健シリーズ・LD・ADHD・高機能自閉症等の理解と支援; vol.5), 桑園 AV 378/Ld/5
- No.10** ことばの発達
医学映像教育センター (発売), 2005 (健康・保健シリーズ・子どもの発達と支援; VOL.4), 桑園 AV 493.91/Kod/4

総評

今回2位にランクインした「パーソナル・ソング」は、アメリカで認知症の音楽療法として、好きな歌を聞かせたお年寄りたちの変化を追った、映画祭各賞受賞の介護ドキュメンタリーです。館内には看護学習に役立つ資料から映画まで揃えておりますので、どうぞご活用ください。(桑園キャンパス・ライブラリー司書 有倉)